

科学研究費補助金（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	19101010	研究期間	平成19年度～平成23年度
研究課題名	東南アジアで越境する感染症：多角的要因解析に基づく地域特異性の解明	研究代表者 (所属・職)	西淵 光昭（京都大学・東南アジア研究所・教授）

【平成22年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
	A+ 当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A 当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	B 当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C 当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(意見等)</p> <p>腸炎ビブリオ感染症について、新型菌が二枚貝の流通ルートの拡大によって発生しており、中国系とイスラム系の貝の加熱に関する食習慣の相違で発生状況が異なることを解明するなど、多様なディシプリンをもつ研究者による文理横断型の共同研究として、国際的にも注目される成果を挙げている。当初目標に向け概ね順調に進展しており、コレラ菌に関して所期の研究が進まなかったことは、チクングニヤ熱についての研究など、当初の計画にはなかった研究の展開で十分にカバーされている。研究成果の公表、社会的還元も精力的に展開されており、今後の計画も具体的で、期待どおりの成果が期待できる。今後は、東南アジアにおける食品衛生、食品に関わる環境衛生について貢献できるようなスキームが提示されることが望まれる。</p>	